

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570600201		
法人名	特定非営利活動法人 ホームママ		
事業所名	グループホーム 介の羽		
所在地	滋賀県草津市南笠東3丁目21-71		
自己評価作成日	平成27年8月17日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2570600201-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介の羽は、民家を改修した入所者定員5名のこじんまりとしたホーム。我が家のような環境の中で、他の入所者様とも、また、スタッフとも、良好な関係を築くことができる。入所者様お一人お一人の生き方を深く理解し、これからの人生をより良いものとするため支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ご入居者一人一人の生活歴を広く理解し、尊厳をもって誠意ある介護のもと、一人一人がともに楽しく輝いて生活できるよう努める」と掲げた独自の理念の基、職員は利用者にとってのより良い暮らしを考えながら一人ひとりに向き合い個々に合わせた対応に努めています。利用者とのコミュニケーションの図り方や行動、特性など職員がもれなく情報を共有できるよう一人ひとりのケア内容をサービスの実施概要に詳細にまとめ日々の支援に活かしています。また食事では業者から届いた食材を利用者の好みや食べやすさを考慮しながら美味しく少しでも多く摂取できるよう日々考えアレンジしたり、ホットケーキやゼリー等のおやつ作りを楽しみ食べることを大切にしています。職員は限られた空間を工夫しソファを置き寛げる場所作りや丁寧に掃除を行い利用者が快適に過ごせるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者様の生き方を深く理解し、これからの人生を支援する。このために必要な方策を職員一同が月一回を目途に持ち寄り、翌日からの支援に反映させている。	開設時に法人が作成した独自の理念を継続しています。理念はホーム内への掲示と共に介護計画の実施に向けた指針にも記載し職員に意識づけしています。管理者は課題が生じた際や月に1度のカンファレンスの中で尊厳や楽しい暮らしの提供など理念に沿って支援できているか話す機会を持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御近所との円滑なお付き合いの第一歩は笑顔の挨拶ととらえて、実践している。地域行事には必ず職員を派出し、町役等の意向を伺うようにしている。	散歩時などに地域の方と出会った際は職員から積極的に挨拶をするよう努めています。町会に加入し地域の防災訓練や掃除、ごみ当番などは地域の一員として職員が参加しています。回覧板から夏祭りなどの情報を得ており、利用者と共に参加し交流できるよう業務分担の見直しに取り組み体制が整い次第参加を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政から認知症に関する相談所に指定されており、どのような相談にも応ずるべく体制を整えているが、実績はまだない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況、安全業務、及び緊急事態への対処要領等についての実情を、行政、包括支援センター、民生委員、地域住民等へ報告し、新しい提案を受ける等により業務に生かしている。	会議は全家族や地域の関係者などにも案内を出し、複数の民生委員や地域包括支援センター職員、市職員などの参加を得て2か月に1度開催しています。行事や事故報告、リハビリの取り組みの成果などを報告の後、毎回決めたテーマに沿って話し合い多くの意見やアドバイスをしています。意見を受けて地域との関わりや関係作りに向け取り組み始めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常業務に対する行政の指導等を真摯に受け取り、可能な限り速やかに是正、反映し、サービス態勢の向上を図っている。	運営推進会議には市担当者の参加を得ており、ホームの取り組みや課題などを把握してもらっています。分からない事があれば窓口に出向いて相談し協力を得ながら運営しています。またグループホームの定例会議にも担当者の参加があり情報を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関わる知識を月例カンファレンス、勤務申し送り等で職員間の理解を深めている。玄関施錠は夜間のみで、日中は解錠している。入所者様の安全は見守りとコミュニケーションにより納得の下で確保している。	身体拘束に関する外部研修を受講し、カンファレンスの中で職員に伝達し周知しています。言葉による制止についても言葉かけが高圧的にならないよう職員に伝えています。利用者にはホーム内で自由に過ごしてもらい、外出したい方には隣接する施設に行くなど気分転換を図れるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で高齢者虐待に関わる知識を月例カンファレンス、勤務申し送り等で職員間の理解を深めている。		

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月、管理者が包括支援センター主催研修の権利擁護学習会に参加した。入所者様、家族等への支援に生かしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関わる重要事項等の説明を十分に行うとともに、契約後における疑問に対しても意思の疎通を図ることで納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に入所者様の生活状況を報告し、その際にご意見ご要望を募っているほか、御訪問時職員への御意見に対しても誠実に応対し、運営に反映させている。	家族の面会時に様子を伝える中で意見や要望を聞いたり、電話をかけた際にも意見や要望が無いか聞くようにしています。家族からの意見を受けて、受診時の利用者の身だしなみに留意したり、車いすでの玄関の出入りが安全にできるよう職員が支援するなどの対応に繋がっています。改善した内容は連絡ノートを用いて職員間で共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにおいて、職員からの意見や提案を受け、会社の運営改善に資するよう提言している。	職員の意見は月に1度のカンファレンスの中や日々の申し送り時などに聞いています。職員からは利用者支援の方法や物品の購入、職員体制など日々多くの意見や提案が出されており、法人にあげ検討してもらっています。管理者は日々職員と接する時間を工夫して作り、職員が意見を出しやすいよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者には{ひと・もの・かね}に関する権限がなく、職員個々の就業状態を評価する制度がない。 職員の充足が不安定で、労働時間が不規則 管理者、夜勤者等を除き、長く勤める職員が確保できていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社は、職員のステップアップ等の経歴管理はしていない。 職場において、職員の意欲に随い、必要な研修等に参加できるよう勤務交代等で支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者に関わる事業所の合同研修に管理者が参加し、情報交換、疑問点解消や、スキルアップを図る機会を作為している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生き方を傾聴、理解し、認知症等に伴う本人の苦悩を同苦する努力を惜しまず続ける。信頼関係の醸成は場合によって長い時間を要するが、本人を理解しようと努める姿勢が信頼を得ることにつながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の現状と、御家族の悩みや希望をお聴きしている。ご家族の要望は可能な限り伺い、受け入れている。ご本人へのサービスは試行錯誤も当然あるため、ある程度の時間を要することを御理解いただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族ともどもと出来る限りの情報を収集し、サービス計画を策定している。実際のケアに伴う本人の言動を検討しつつ、よりよいケアの定着を図っている。状況変化に伴うケアの変更は臨機におこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLやQOLにしたがってあくまでご本人を中心とした生活を確立していく工夫を行うことで、御本人の信頼が少しずつ厚くなることで「お世話する者」から「パートナー」に変化しつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者様の心身状態、ご家族の事情により面会頻度もまちまちである。ご家族の事情を理解しつつ、御本人の記憶に残るために定期的な面会訪問をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように、御家族等と連携を取りつつ面会、訪問をお願いし、実現した場合には御家族等に安心感と信頼感をもって頂き、次回の面会を期して頂けるようお迎えしている。	利用者の重度化が進み馴染みの関係の継続についての要望も出にくく、家族以外の来訪は殆ど無い状況ですが希望が出された際には支援に繋がるよう家族に伝える予定としています。また現在外出の機会が持てるよう業務分担の見直しなどに取り組んでおり、体制が整えば意向を引き出し馴染みの支援にも取り組みたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様の心身状況、認知症の中核症状や周辺症状により、特定の入所者間には双方ともに理解が不能であるためのもめごとが時に起こる。入所者同士の間には職員が入り双方が折り合えるよう工夫して接している。		

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況が悪化し、入院されるなどの場合や、経済的な事情による事業所を変える場合も、電話、面会等でご本人、御家族等との関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様とは基本的に受容的姿勢で対応し、入所者本位で、その意向を十分に引き出し反映できる支援体制ができていると考える。	入居に向けては利用者や家族と面談し、利用者の思いや生活歴などを聞いたり、利用していた事業所からも情報をもらい思いの把握に繋げています。入居後の利用者の言動や様子、職員が気付いた事などは経過観察記録に記入し、カンファレンスや申し送りの際に話し合っています。また把握した内容は個別の実施概要にまとめ職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、御家族等からのアセスメントの反復、生活を続ける中でのご本人からの聞き取りによりこれまでの生き方を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の担当職員は数名になるが、申し送り、記録、経過観察等による情報をまとめ、他職員間の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいて、介護計画を策定し、現場でのケアの実践と記録を積み上げている。これらの情報を基にケア会議において意見を集約してより適切な介護計画に修正し、新たなケアに努めている。	本人、家族の意向や職員の意見、日々の記録などを基に介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、変化のない場合には3~4ヶ月後に計画を見直しています。必要に応じて往診時など事前に聞いた医師の意見を反映させています。また個人記録には短期目標が記載され、日々実施状況を記入し確認しやすくしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録類を見直して1年余り。情報を「経過観察記録」に集約して適切なケアのため充実させ、ケアプランへのモニタリング資料として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	骨折治療で、訪問リハビリを取り入れた結果、自立歩行への意欲向上につながってきた。		

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な地域資源は、御近所の住人(無償ボランティア)である。運営推進会議への参加はまだ、民生委員だけで、住人は不参加である。町役の参加を要請中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師に隔週の往診をして頂いている。入所者様の近況は連携書の他、立会職員により直接報告している。得られた医師及び薬剤師の指示を同連携書、業務日誌等で各職員に伝達している。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが現在は全利用者が協力医に変更し、2週間に1度の往診を受けています。協力医は24時間相談でき、緊急時には指示を得たり往診に来てもらう事もあります。往診時には利用者の変化の記録を見てもらい情報を共有しています。また専門医への受診は家族が付き添い必要に応じて職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職の協働はない。かかりつけ医師と緊密に連携を取り、入所者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様の入退院に際し、医療機関、御家族、医療関係職員等との連携を円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期での受け入れ態勢は未整備である。かかりつけ医、御家族との協議を経て、職員が可能な範囲で支援している。	日常的に医療が必要となった場合にはホームでの対応は難しく、家族と話し合い入院や他施設へ移行できるよう支援しています。現状では訪問看護を利用しながらホームでできる支援に取り組んでおり、職員体制を整えば利用者や家族の意向に沿って看取りまで支援したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の初動対処要領をケアカンファレンスや職員間の連携時、そして消防機関との実動訓練で訓練している。事業所内での連携要領も確立している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防機関との合同訓練を定期的実施し、初動における避難誘導要領を策定している。地域の協力を得るよう取り決めを行っている。	年に2回、日中を想定し消防署の協力の下に火災や地震を想定した訓練を行い、通報や初期消火、避難誘導などを実施しています。会議の中でも避難誘導などについて話し合っています。地域の訓練には職員が参加しており、課題でもある地域との協力関係作りに取り組む予定としています。玄関に非常持ち出し袋を準備しています。	職員の少ない夜間の時間帯を想定した避難誘導の方法を訓練に取り入れたり、地域の方の協力が得られるよう訓練の開催を地域の方に知らせる事から始められてはいかでしょうか。

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格に対する尊厳を最大限尊重し、対応している。入所者様を中心にサービスを組み立てるように計画実施している。	利用者の尊厳を守るとはホームの理念にも謳われており、コンプライアンスの話の中でも尊厳や人権の擁護などについて職員に伝えていきます。利用者の名前は苗字で呼び、個々の利用者に合わせてできるだけ笑顔で柔らかい声かけに努めています。不適切な対応があれば職員間で互いに注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も御本人の意思決定に従い支援する。必要な場合、本人の自己決定を支援するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少ないとはいえ、5人の入居者様のペースを重視する場合、職員の職務遂行状況が滞る場合が多いが、職員間の連携を良好に保つことで解決している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お持ちの衣料品を季節や、体調等を考慮しつつ更衣のお手伝いをしている。時に必要なものがない場合は、御家族に進言して必要な物品をお持ちいただく場合もある。また、月1回を目途に訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、配膳、下膳のお手伝いをして頂いている。嗜好や調理の工夫に配慮するとともに、過度にならない程度の介助をしている。	業者の献立に沿って食材が届き、しっかり食べてもらえるよう利用者の好みや好き嫌いを考慮しながら献立をアレンジし、利用者には配膳などのできる事に携わってもらっています。ホットケーキや寒天などの手作りおやつを楽しんだり、年に1-2度行事で出かけた際の夕食や弁当を作って出かけたこともあります。食卓では職員も一緒に談笑しながら同じ食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の他、排泄の有無や健康チェックの結果を「サービス記録」として御本人の健康状態の周期を把握できるであろうデータを1年分余り蓄積している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者様個々の能力により、口腔ケア要領を工夫し、毎食後を目標に励行して頂いている。		

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁や、失敗を恥じて萎縮されたり、遠慮されることのないようにコミュニケーションを取りながら支援要領を前進させている。	排泄チェック表を参考に個々の排泄リズムに合わせてトイレで排泄できるよう支援しています。声掛けの工夫をすることでトイレで排泄ができるようになり失敗が減ったり、本人に合った排泄用品についても検討し、失敗なく快適に過ごせるよう支援しています。同性介助の希望にはできるだけ対応するようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の偏り、運動不足が主たる要因と思われる。ある入所者様は、自力で排泄されるが、長期に亘る場合、シンラック内用液を使用している。他の入所者様はマグミットを服用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全安楽な入浴を提供できるように、週2回の入浴日を計画。前もって入浴を予告し、意欲を高めて進んで入浴して頂くようにしている。	入浴は概ね週に2回午後から支援し、入浴専門のスタッフが安全に入浴できるよう一人ひとりに合わせて支援しています。浴室では会話を楽しみながらゆっくり湯船に浸ってもらい、見守りで入れる方は希望に沿って夜間の入浴にも対応しています。また入浴を好まない方には声掛けの工夫や入りたい時間を選んでもらい入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様個別の生活サイクルを重視するとともに、声かけや観察により休息が必要と判ればゆっくり休憩して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度、用法等を確認後職員間で共有し、服薬支援をしている。変化の有無は観察及び記録を行っている。緊急時は直ちに、不急の場合は次回の診察時医師に報告している。薬剤の留意事項は訪問薬剤師に説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の手伝いをお願いして、ADLの確認、維持に努めるとともに、生活上の役割を確認して頂いている。嗜好、趣味等の理解を深めつつ、要望に沿うように務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族、地域の企画に応ずることを前提としている。ただ、入所者様の体調が変化しつつある今日、事前のしっかりした準備が必要である。散歩については御希望を確認の上体調の許される範囲で同行するようにしている。	年に数回、桜の花見や琵琶湖の水生植物園に連れ出かけています。散歩されたい方には隣接する法人の施設へ出かけ気分転換を図ってもらっています。日常的な外出は困難な状況ですが利用者の外出の機会を増やせるよう業務分担の見直しを行っています。	外出を課題として業務分担の見直しに取り組まれています。早期に体制を整え利用者が散歩に出たり、気分転換を図れる機会を持てるよう取り組まれることを期待します。

グループホーム 介の羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くに商店等がなく、お金を使う機会がないため、現在はお金を所持されていない。必要な場面ではご家族と相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、手紙の代読をするなど必要な対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手狭ではあっても、清潔な状態を維持し、不快感や混乱をまねく刺激を極力排除して、入所者様全員が心地よい生活空間で過ごせるように務めている。	家庭的な雰囲気のある共用空間は利用者の移動しやすさや利用者間の相性を考慮して随時座席を変更しながら快適に過ごせるよう配慮しています。また限られた空間を工夫し廊下にソファや椅子を置き寛げるスペースを確保しています。毎日掃除を行い日に3度窓を開けて換気をするなど、快適な生活空間が保てるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でリラックスできるように環境を整備している。また、リビング、ホール等で入所者様同士が過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご家族やご本人のお好みの品を置いたり、御実家で使用されていた布団を使うなど、入居前からの延長となるように配慮している。	入居案内には馴染みの物を持参してもらうよう記載しており、入居時にも伝えています。ベットや寝具類は備えつけですが使い慣れた布団を持参している方もおり、必要な身の回り品や大切にしている衣類などを持参しています。ベットなどの配置は安全に移動できるよう配慮したり、自身で整理整頓する方もおり、寛いで過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて自室、トイレ等の入り口に表示をするようにしている。		